

文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進  
平成 27 年度「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証  
実践的教育課程の企画手法と学習者主体の授業計画ができる研修モデルの実践および普及

---

# インストラクショナルデザイン講座

## 講師育成編

### 《実施マニュアル》

---

一般社団法人 全国専門学校教育研究会

## 目次

はじめに .....	- 3 -
第 1 章 指導要領と実証講座実施マニュアル .....	- 4 -
第 2 章 実証講座受講者アンケート .....	- 12 -

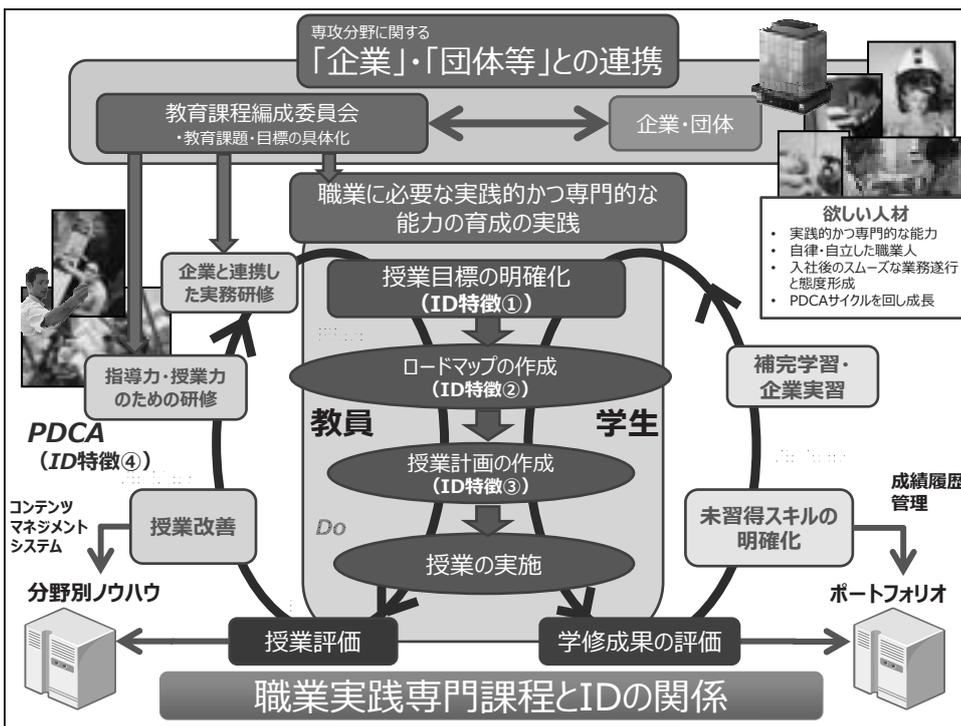
# はじめに

この実証講座全体の目的は以下である。

職業実践専門課程として職業実践的教育を行う上で、企業・業界が求める汎用的な能力向上を行うための教育課程の編成や演習・実習の授業運営を行う教員のコアスキルとして、最も効果的かつ効率的な教育を設計・開発技法を習得するための研修プログラムを開発・実証する。

その下に、インストラクショナルデザイン分科会は職業実践専門課程における教育の質向上を図ることを考え、以下を講座の目的とした。

- ・職業実践専門課程として企業等のニーズを取り入れるカリキュラム・シラバスの作成ができる教員の養成
- ・企業が求める知識・技術等を、学生がより高い水準で習得できるように、インストラクショナルデザイン（以下 ID）を用いた体系的なカリキュラムの編成を行える教員の養成
- ・産学連携による多様な教育方法を活用し、目標とする人材像に必須のスキル、もしくはその評価基準を可視化したシラバスの作成が行える教員の養成
- ・教員同士が相互フィードバックし、教育設計を学びあう仕組みと土壌を作成する



## 第1章 指導要領と実証講座実施マニュアル

実証講座 インストラクショナルデザイン講座 新任教員対象	7 時間
実証講座 インストラクショナルデザイン講座 中堅教員対象	7 時間
実証講座 インストラクショナルデザイン講座 講師育成	14 時間
<b>E-learning</b>	

**【1. 科目名】**

「インストラクショナルデザイン講座（講師育成）」

**【2. 担当講師】**

株式会社ウチダ人材開発センタ講師

**【3. 研修形態】**

講義、演習、グループワーク等による

**【4. 履修時間】**

14 時間

**【5. 研修の概要と目標】**

昨年度からの継続事業として、職業実践専門課程を担う教員のスキル向上を目的として講座を開発した。企業のニーズ（知識・技術等）を学生がより高い水準で習得できるようにインストラクショナルデザインを用いて、産学連携などの多様な教育手法も活用し、体系的なカリキュラムの編成を行い、目標とする人材像に必須のスキル、もしくはその評価基準を可視化したシラバスの作成が行えるように構成した。

当講座は、インストラクショナルデザインにより設計された授業を自校で展開していく旗振り役の方、「職業実践専門課程」の推進を担うリーダー的立場の方、インストラクショナルデザインを学校に広めたいと思っている方などを対象として、特に「シラバス」「コマシラバス」「課題分析図」の評価を行えるようになる内容とした。

**【6. 本講座の位置付け、受講後の効果】**

本講座は前述の通りシラバス・コマシラバスと課題分析図を評価するスキルを学び、学内でインストラクショナルデザインの導入に関してリーダーシップを取り、他の教員の授業設計を指導できるようになることを目指す。本講座の前段階である「インストラクショナルデザイン講座（新任教員編）」、「インストラクショナルデザイン講座（中堅教員編）」の内容はすでに知っていることを前提とする。本講座を含む3つのステップの3つ目のステップの講座である。

**【7. 本講座の修了条件】**

他人の作成したシラバス、コマシラバス、課題分析図をチェックシートを用いて評価できること。

**【8. 配布資料一覧】**

- ①式次第（タイムテーブル）
- ②テキスト
- ③テキスト内ワークシート別紙（要望があれば配付）
- ④研修会アンケート用紙（記入後回収）

**【9. その他の配布物等】**

- グループ札（A, B・・・）
- 模造紙 グループに3枚以上
- A3の白紙。人数分＋予備10枚程度
- 模造紙用マーカー（黒、赤、青）グループに各2本ずつ
- 正方形の付箋。1名あたり20枚程度。
- 長方形（2×7.5） 1名あたり20枚程度。

**【10. 機材】**

- 講師用 PC (スライド投影用)
- プロジェクター、スクリーン
- (成果物が紙の場合) カメラ、またはカメラ付タブレット、PC ※成果物を撮影して、プロジェクターで投影(可能であれば)
- タイマー
- マグネットかテープ(模造紙を貼るため)
- マイクとスピーカー(広い教室の場合)

**【11. 事前課題】**

特になし

**【12. 会場レイアウト】**

- 1グループ4名~6名。机は島形式とする
- 前方に講師席、後方にオブザーバー席

**【13. 持参物】**

- ご自分の実際の授業を設計したシラバス、コマシラバスなど授業内容がわかる資料
- 自学校の理念・目的、学校の目指す人材像、などが分かる資料

進行時刻の目安	單元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
1日目 9:00	オリエンテーション	10分 10分	○開講のあいさつ、講師自己紹介 ○グループワーク（自己紹介） ・グループ内自己紹介（学校名、名前、担当教科、教員経験年数）1名1分程度。		
9:20	第1章 オリエンテーション	10分	○研修のねらいなど ・開発の目的、講座の目標、そして ID とは何かを簡単に説明 授業はどのようにして設計しているか。前任の教員のシラバスをそのまま実行しているのではないだろうか。自分で設計した場合は、どのような考え方・手法で設計しているか。その手順が ID である。ID は教育の効果・効率・魅力を高めることができる。今回は半期または1年の授業（シラバス）の設計手法を学ぶ。 ・対象 以下のことを伝える（厳密に挙手などして確認まではしなくてよい） より効果的・効率的・魅力的な授業を自校で展開していく旗振り役の方 職業実践専門課程」の推進を担うリーダー的立場の方 インストラクショナルデザインを学校に広めたいと思っている方 インストラクショナルデザインを再確認したい方	テキスト	講義
9:30	第2章 インストラクショナルデザインの概要と必要性	10分	○職業実践専門課程と ID との関係を図を使用して説明 ・企業のニーズが、学科・教科・科目の目標となる。教員はそれを学習の目標に落としてから、授業設計を行う。ID の ADDIE モデル（一般的には PDCA）を行うことで実践的な能力を育成することができる。 <b>※ポイントのみ紹介</b> ○ID の概要、シラバスとの関連、ADDIE モデルを紹介 ・ID の利点、事例、様々な理論を紹介 今回とりあげなかった理論も含めて、いろいろな考え方がある。今回扱うことを知らせる。みなさんや、みなさんの学校で実践しているやり方も、（うまくいっていれば）インストラクショナルデザインなのだと伝える。	講師	グループワーク
9:40	グループワーク	15分	○グループワーク（情報・課題共有）10分 ・現在ご自分の学校ではインストラクショナルデザインを活用しているか？ 学科の目標、科目の目標、シラバスを学生、保護者に公開	テキスト	

進行時刻の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
9:55	第3章 学習目標の明確化	20分	<p>しているか？何割ぐらいの教員がコマシラバスを作成しているか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あとでどんな意見が出たか発表してもらうことを伝える</li> <li>・グループ代表者からどんな意見が出たか発表 5分</li> </ul> <p>※2グループぐらい</p> <p>※ポイントのみ紹介</p> <p>○目的と目標の違い（例. 目的は幸せな人生を送る。目標は1億円をためる、家族を持つ等）</p> <p>○学習目標には領域（認知領域、運動領域、情意領域）、分野（言語情報・知的技能・運動技能・態度）として3つの領域、4つの分野がある。授業の目標を立てる際は、それを明らかにする</p>	ト	講義
10:15	休憩	10分	～休憩～	学習目標サンプルワークシート	
10:25	演習	60分	<p>○学習目標の評価・改善</p> <p>○ワークシートの「目標設定チェックシート」を参考に、サンプルの学習目標を評価・改善する。改善する際、ワークシートの「学習目標の設定」シートを使用する。</p> <p>○個人で評価・改善点の洗い出し（20分）グループで共有・改善（20分）発表（各グループ5分程度）</p>		グループワーク
11:35	演習続き	10分 15分	<p>途中に休憩をはさむ</p> <p>○講師からフィードバック、演習振り返りディスカッション</p>	模造紙 マーカー マグネット または テープ	
11:50	昼休憩	60分	～休憩～		
12:50	第4章 課題分析	30分	<p>○課題とは何かを説明する。授業を終了した段階であるべき姿と現状との差、それが課題である。</p> <p>○課題分析の手法を紹介。学習目標の4つの分野にはそれに適した手法がある。テキストの例を紹介。</p>		
13:20	演習	60分	<p>○課題分析図の評価・改善</p> <p>○ワークシートの「課題分析図チェックシート」を参考に、サンプルの課題分析図を評価・改善する。改善する際、ワークシートの「課題分析図」シートを使用する。</p> <p>○個人で評価・改善点の洗い出し（20分）グループで共有・改善（20分）発表（各グループ5分程度）</p>	サンプルシラバス	グループワーク 個人ワーク
		10分	途中に休憩をはさむ	テキスト	

進行時刻の目安	單元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
14:30		15分	○講師からフィードバック、演習振り返りディスカッション	ト	グループワーク
14:45	第5章 シラバスの作成	10分	※ポイントのみ紹介 ○課題分析図からシラバスを作成する流れを紹介。 ・チャンクを考え方を説明。「展開部分、つまり情報提示と学習活動がチャンク」		
14:55		30分	○演習「シラバスの評価」 サンプルのシラバスを変更、または前の演習で作成したサンプルの課題分析図改善したものからシラバスを作成する。 ○個人で評価・改善点の洗い出し、または作成（10分） グループで共有・改善（15分）発表（各グループ5分程度）	テキスト サンプル コマシラバス	
15:25		10分	～休憩～		
15:35	第6章 コマシラバスの作成	15分	※ポイントのみ紹介 ○コマシラバスの設計を紹介。 ・ガニュ、ARCS、メリルの考え方、グループワーク、質問技法を紹介 ・ガニュをもとにコマシラバスフォーマットを作成したことを説明。		講義
15:50		演習	35分	～休憩～ ○演習「コマシラバスの評価」 サンプルのコマシラバスを評価する。 ○個人で評価・改善点の洗い出し、または作成（10分） グループで共有・改善（15分）発表（各グループ5分程度）	
16:25		10分	～休憩～		
16:35	まとめ	25分	本日のまとめ、振り返り		
17:00					

進行時刻の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
2日目 9:00	前日の復習	30分	○講師から振り返り ○グループにて前日の内容について感想を話し合う 1, 2グループよりどんな意見が出たか発表。	テキスト	グループワーク
9:30	第7章 授業の評価・改善	20分	○演習 グループメンバーの持参した授業計画のうち1つを選び、学習目標を評価する ・なるべく専門的すぎず、ほかのメンバーが内容を想定できるもの ・評価にはチェックリストを使用 ○個人で評価・改善点の洗い出し（10分）グループで共有・フィードバック改善（15分）発表（各グループ5分程度）	持参した授業計画	講義 個人ワーク
9:50	演習	30分	※フィードバックの仕方も今回の研修の目標。否定的ではなく、よりよくするためのフィードバックであることを忘れずに。言葉に気を付けるようにと伝える。		講義
10:20	休憩	10分	～休憩～		
10:30	演習	60分	○演習 学習目標を評価した同じメンバーの課題分析図を評価する。もし、なければ作成する。 ○個人で評価・改善点の洗い出し（15分）		個人ワーク グループワーク
11:30	休憩	10分	～休憩～		
11:40	演習（続き）	60分	○グループで共有・フィードバック改善（40分） ・模造紙に課題分析図を作成する ○発表（各グループ5分程度）		グループワーク
12:40	昼休憩	60分	～昼休憩～		
13:40	演習	20分	○演習 前の演習で評価した同じメンバーのシラバス、コマシラバスを評価する。もし、なければ作成する。 ○個人で評価・改善点の洗い出し（15分）		
14:00	演習（続き）	60分	○グループで共有・フィードバック改善（40分） ・ワークシートに記入する ○発表（各グループ5分程度）		

進行時刻の目安	單元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
15:00	休憩	10分	～休憩～		
15:10	演習	30分	○演習 「インストラクショナルデザインの概要をわかりやすく説明」するための資料をグループで相談しながら模造紙を使ってグループで作成する（30分）		グループワーク
15:40	演習（続き）	40分	○発表 代表者が発表する（時間があるかぎりできるだけたくさんのメンバーが説明する練習をしておく）（各グループ10分）		
16:20	休憩	10分	～休憩～		
16:30	演習	30分	～休憩～		
17:00			○まとめ 先ほどの発表をグループで振り返り。それとともにまとめのディスカッション  ○司会より閉会の言葉。 アンケート提出後解散。		

## 第2章 実証講座受講者アンケート

### 内容

1. 実証講座の満足度についてお聞かせください。

とても満足 満足 普通 やや不満 不満

理由

( )

2. 講座の目的・目標は理解できましたか？

理解できた どちらともいえない 理解できなかった

理由

( )

3. 職業実践専門課程の教員用として講座内容は、適切だったと考えますか？

そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

( )

4. 使用教材についてお聞かせください。

①構成がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

②みやすい そう思う どちらともいえない そう思わない

③役に立つ そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

( )

5. 実習(演習)についてお聞かせください。

とても満足 満足 普通 やや不満 不満

具体的に

( )

6. 講師の教え方についてお聞かせください。

①総合的な満足度 とても満足 満足 普通 やや不満 不満

②説明の仕方がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

③質問への対応よい そう思う どちらともいえない そう思わない

④時間管理がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

( )

7. 研修時間についてお聞かせください。

長すぎる やや長い 丁度良い やや短い 短い

8. 今回学習したインストラクショナルデザインの内容を自分の授業で実践しようと思いますか。

思う どちらともいえない 思わない

9. 今回学習したインストラクショナルデザインの内容で、どの部分が一番印象に残りましたか？  
またその理由をお聞かせください。

①職業実践専門課程と ID との関係

②明確な目標設定

③課題分析評価

④シラバス評価

⑤コマシラバス評価

⑥その他 ( )  
( )

10. その他、ご意見・ご要望、感想等自由に記入してください。

( )

主催	
法人名	一般社団法人 全国専門学校教育研究会
会長	学校法人 浦山学園 理事長 浦山 哲郎
アドレス	<a href="http://www.zsenken.or.jp/">http://www.zsenken.or.jp/</a> 